作られた「物語」を超えて　模範解答・解説

教材別リメイク版　中学３年　国語　／　山極寿一・光村図書『国語３』

【このテストの使い方】

本文は載せていません。**教科書『国語３』の「作られた「物語」を超えて」のページを開いたまま**解答します。この文章は、ゴリラを長年観察してきた筆者が、**世の中に広まっていた誤ったゴリラ像（＝作られた「物語」）**を、自分の観察した事実によって問い直していく**説明的文章（論説文）**です。「通説 → 疑問 → 観察 → 原因の分析 → 主張」という**論の流れ**をたどれるかどうかが最大のポイントなので、記述問題を多めにしています。

配点一覧

観点	大問	内容	配点
知識・技能 50点	一	漢字の読み書き（20問）	１点×20＝20点
	二	語句の知識（語の意味・対義語・類義語・四字熟語・慣用句・ことわざ）	２点×７＝14点
	三	接続語・指示語と論の展開	16点
思考・判断・表現 50点	四	「作られた「物語」を超えて」の読解	50点
合計			**100点**

【出題のねらい】

①　筆者が**ゴリラを野外で観察してきた霊長類学者**であり、主張が**自分の観察した事実**に支えられていることを理解しているか。

②　かつての「ドラミング＝攻撃の合図」「凶暴な怪物」という見方が、**人間が作り上げた「物語」**であると説明できるか。

③　誤解が生まれた原因を、**断片的な観察・西洋の価値観・映像によるイメージの増幅**という三つに整理できるか。

④　誤解の背後に**人間自身の社会観・暴力観の投影**があるという、一段深い指摘を読み取れるか。

⑤　**接続語・指示語**を手がかりに論の展開（譲歩→反論、具体→抽象など）をたどり、筆者の主張を自分の言葉で書けるか。

一　漢字の読み書き　（１点×20＝20点）

番号	解答	番号	解答
①	きょうぼう	⑪	経験
②	ごかい	⑫	否定
③	ちゅうさい	⑬	支配
④	へんけん	⑭	保護
⑤	いかく	⑮	批判
⑥	しょうとつ	⑯	認識
⑦	くつがえ（す）	⑰	想像
⑧	おさ（える）	⑱	挑む
⑨	はいじょ	⑲	傷つける
⑩	しょうちょう	⑳	強調

小計　20点

【注意したい字】

①「凶暴」は「狂暴」とも書くが、**この教材では「凶暴」**でそろえる。読みは同じ。③「仲裁」は「ちゅうさい」。「なかさい」は×。⑤「威嚇」の「嚇」は口へん。読めても書けない字なので、読みだけ覚えておく。⑦「覆す」は**送りがなが必要**（「くつがえ」だけでは×）。⑧「抑える」は「押える」と混同しやすいので、ここでは「おさ（える）」と答える。⑫「否定」の「否」は「不」と形が似ているので注意。⑮「批判」の「批」は「てへん」、「判」は「りっとう」。⑭「保護」の「保」は「にんべん」。⑰「想像」と「創造」の書き分けに注意（ここは頭の中で思いうかべる意味なので「想像」）。⑱「挑む」（送りがなは「む」）⑲「傷つける」は**送りがなまで**書けて正答。

二　語句の知識　（２点×７＝14点）

番号	解答	解説
(1)	**ア**	「凶暴」＝性質があらあらしく、乱暴で危険なこと。イ「体が大きく力が強い」は体格の話で、性質の話ではない。この区別が、この教材のテーマそのものにつながる。
(2)	**イ**	「断片的」＝きれぎれで、全体の一部分にすぎないこと。⇔「総合的・全体的」。誤解の原因を説明するときの重要語。
(3)	**主観的**	客観的 ⇔ 主観的。「客観」⇔「主観」でもよいが、問いが**漢字三字**なので「主観的」と書く。
(4)	**イ**	「先入観」＝前もってもってしまった思いこみ。「偏見」＝かたよった見方。どちらも**事実を確かめる前に固まってしまった見方**で、類義語の関係。エ「根拠」は反対に近い語。
(5)	**色**	「十人十色」＝考え方や好みが人によってそれぞれちがうこと。「十人十食」などの同音異字に注意。
(6)	**ア**	「一目置く」＝相手のすぐれた点を認めて、敬意をはらう。もと囲碁で、実力が上の相手に先に一目（石一つ）を置かせてもらうことから。
(7)	**イ**	「百聞は一見にしかず」＝人から百回聞くより、一度自分の目で見るほうが確かだということ。筆者の主張（自分の目で確かめる）と重なる。

小計　14点

三　接続語・指示語と論の展開　（16点）

番号	解答	解説
(1) 1 点	**ア（順接）**	「だから」＝前が**原因・理由**、後が**結果**。「したがって」「それで」「そこで」も同じ働き。
(2) 1 点	**イ（逆接）**	「しかし」＝前から予想される内容と**逆の内容**が続く。「だが」「ところが」「けれども」も同じ。論説文では**筆者の言いたいことが「しかし」の後ろ**に来ることが多い。
(3) 1 点	**ウ（並立）**	「また」＝前後を**対等に並べる**。前後を入れかえても意味が変わらないのが見分け方。
(4) 1 点	**エ（添加）**	「しかも」＝前の内容に**さらに付け加える**。「そのうえ」「さらに」も同じ。**ウ（並立）との区別**…入れかえられない＝添加。
(5) 1 点	**カ（説明・補足）**	「つまり」＝前の内容を**言いかえ・要約**する。ここは「一日も休まなかった」という**具体**を「皆勤だった」という**まとめ**に言いかえている。
(6) 1 点	**キ（転換）**	「ところで」＝話題を**別のものに変える**。選択肢オ（対比・選択）は「それとも」「または」などが入る働きで、ここでは使わない。
(7) 1 点 × 4	**①　したがって** **②　むしろ** **③　つまり** **④　ただし**	①前（記事が何度も載った）が**理由**、後（もうなくなったと思っている）が**結果**＝順接なので「したがって」。 ②「～ではない。（　）、～だ」の形は、打ち消したうえで**より適切な見方を示す**「むしろ」。 ③前の調査結果を**言いかえてまとめる**ので「つまり」。 ④いったん述べた内容に**条件・例外を付け加える**ので「ただし」。 **各１点。順番がずれると連鎖して失点するので、②「むしろ」から決めるとよい。**
(8) 3 点	**（例）昼休みに全員で読書をすること（14字）**	指示語は**直前**を探すのが原則。「これ」は前の文の内容全体を指す。 **採点**…「昼休みに（全員で）読書をする」という内容が書けていれば３点。「学校」とだけ書いたもの、「午後の時間を過ごすこと」

		と書いたもの（＝目的のほうを書いてしまったもの）は０点。十五字を超えたら－１点。**文末は「〜こと」**の形にそろえる。
(9) 3 点	**ウ（譲歩→反論）**	「**確かに〜。しかし〜。**」は、いったん相手の言い分を認めて（譲歩）から、自分の主張を述べる（反論）**型**。この型を見つけたら、「**しかし**」**の後ろが筆者の主張**だと判断してよい。大問四の文章全体も、この型の大きな形になっている。

小計　16点（６＋４＋３＋３）　／　知識・技能　合計　50点

【接続語から論の流れを読むコツ】

①「**しかし**」「**ところが**」＝ここから**筆者の言いたいこと**。②「**つまり**」「**すなわち**」＝直前の内容の**まとめ**なので、要旨をつかむ手がかり。③「**なぜなら**」「**というのは**」＝**根拠**の提示。④「**確かに〜。しかし〜。**」＝**譲歩→反論**。⑤「**例えば**」＝具体例。その**前か後ろに抽象的なまとめ**がある。

四　「作られた「物語」を超えて」の読解　（50点）

番号	解答	解説・採点のポイント
(1) 2 点	**ア**	筆者（山極寿一）は、アフリカで長年ゴリラを野外観察してきた**霊長類学者**。この文章の説得力は「自分で見た」という立場に支えられている。
(2) 2 点	**ア**	「ドラミング」＝ゴリラが**両手で自分の胸をたたく**行動。イ・ウ・エはゴリラの別の行動で、ドラミングではない。この行動の意味が、通説と筆者の観察とで大きくちがう点が、文章の中心になる。
(3) 4 点	**ウ**	かつてドラミングは「**敵に攻撃をしかける合図**」と説明され、ゴリラは凶暴な動物だとされてきた。これが「作られた「物語」」の中心。ア・イ・エのような説明はされていない。
(4) 4 点	**（例）相手との争いを避けるための自己主張であること。(23字)**	「**争いを避ける（戦いを回避する）**」（２点）＋「**自己主張・意思表示**」（２点）の二点で採点。 「相手をおどすための行動」「攻撃の合図」は**０点**（通説のまま）。「胸をたたく行動」のように**動作の説明だけ**のものも０点（はたらきを問われている）。 文末が「～こと。」でないものは－１点。二十～三十字から外れたら－１点。
(5) 5 点	**ア・ウ・エ**	誤解が生まれた原因は、**①短期間・断片的な観察**（ア）、**②西洋の価値観を通した見方**（ウ）、**③映画などによるイメージの増幅**（エ）の三つ。 イ…体の大きさが小さく伝えられたという話はない。オ…ゴリラの数が増えたという話はない（むしろ減っている）。 **ア・ウ・エの三つがそろって５点（完答）**。一つでも欠けたり、余分に書いたりしたら０点。
(6) 4 点	**イ**	ゴリラの群れは**力による一方的な支配**ではなく、対立が起きたときに間に入って収める**仲裁**の動きがあり、たがいに**共存**していく関係で成り立っている。ア（力の支配）は、まさに人間が思いこんできた誤ったイメージ。

四　「作られた「物語」を超えて」の読解　（つづき）

番号	解答	解説・採点のポイント
(7) 5 点	**（例）人間自身がもつ社会観や暴力観を、そのままゴリラに重ねて見ていたこと。(34字)**	「人間自身の社会の見方・暴力についての考え」（３点）＋「それをゴリラに重ねて（投影して）見ていた」（２点）の二点で採点。 「ゴリラをよく知らなかったから」のように**知識不足だけ**に理由を求めたものは２点まで。 「人間が悪いから」のような漠然とした答えは０点。三十〜四十字から外れたら－１点。
(8) 6 点	**（例）事実を確かめないまま信じ続けられ、誤った見方が正しい知識として定着してしまう危険。(41字)**	「事実を確かめずに（確認なしに）」（３点）＋「信じ続けられ、誤った見方が定着してしまう」（３点）の二点で採点。 「うのみにされてしまう」「疑われなくなる」も可。 「人に迷惑がかかる」など、**事実確認の欠落に触れていない**答えは２点まで。「物語はおもしろいから広まる」は０点。四十〜五十字から外れたら－１点。
(9) 4 点	**イ**	筆者の主張は、**自分の目で確かめ、相手の立場に立って理解し直す**ことで「作られた物語」を超えられるということ。ウのような「分かり合えない」という結論にはなっていない。
(10) 4 点	**イ**	**通説の提示→通説への疑問→自身の観察の報告→誤解が生じた原因の分析→主張**という、論説文の典型的な構成。ウは小説・随筆の構成、エは社会科のレポートの構成で、この文章にはあてはまらない。
(11) 4 点	**エ**	この文章でいう「物語」は、**実際とはちがうのに人々の間に広まり、信じられてきたイメージや見方**のこと。ア…楽しむための作り話という意味ではない。イ…動物が語る話ではない。ウ…映画の筋書きを指すのではなく、映画などはイメージを広める手段の一つ。

四　「作られた「物語」を超えて」の読解　（つづき）

番号	解答	解説・採点のポイント
(12) 6 点	**（例）血液型で性格が決まるという話は、根拠を自分で調べ、思いこみで人を決めつけないようにしたい。（45字）**	【ルーブリック】 A　**例の具体性**（２点）…「血液型と性格」「○○県の人は～」「女子は理科が苦手」など、**根拠が不確かなまま信じられている見方**を具体的に挙げている＝２点／「うわさ」「偏見」など**漠然とした語だけ**＝１点／例がない＝０点。 B　**向き合い方**（３点）…「**自分で調べる・確かめる**」「**決めつけない**」「**相手の立場で考え直す**」のうち**二つ以上**＝３点／一つ＝２点／「気をつけたい」だけ＝１点。 C　**字数・表記**（１点）…四十～五十字で、文末がそろい、誤字がない＝１点。 ※本文の主張（自分の目で確かめる／相手の立場に立つ）と**つながっていること**が条件。単なる感想（「おどろいた」等）は０点。

思考・判断・表現　合計　50点　／　総合　100点

【この教材で落としやすいポイント（８つ)】

1. 筆者は**ゴリラを野外で観察し続けた研究者**。主張の根拠は「読んだ知識」ではなく**自分が見た事実**である。
2. 「作られた「物語」」とは**人間がゴリラについて勝手に作り上げた誤ったイメージ**のこと。ゴリラが語る物語ではない。
3. **ドラミングは攻撃の合図ではない。争いを避けるための自己主張**である。ここを通説のまま書くと記述は全滅する。
4. 誤解の原因は**三つ**（断片的な観察・西洋の価値観・映像によるイメージの増幅)。一つだけ書くと減点される。
5. ゴリラの群れは**力による支配ではなく、仲裁による共存**。「ボスが力で従わせる」は人間側の思いこみ。
6. 誤解の背後には**人間自身の社会観・暴力観の投影**がある。つまりこの文章は**ゴリラ論であると同時に人間論**。
7. 一度広まった「物語」は**事実を確かめられないまま信じ続けられる**。この**危険**を書く記述が最も配点が高い。

8. 主張は「**物語を捨てろ**」ではなく「**自分の目で確かめ、相手の立場に立って理解し直せ**」。言いすぎた選択肢にひっかからないこと。